

中長期視点に立った投資方針

中長期的に株主価値の向上に資する積極的な成長投資により利益拡大を図るとともに、株主還元をバランスよく行い、適切な株主資本の水準を保っていきます。

成長投資（研究開発投資）

当社は、研究開発志向型製薬企業として、独創的かつ画期的な新薬の創製をめざすとともに、開発パイプラインの拡充を実現するために、積極的な研究開発投資を行っています。

具体的には、世界最先端の技術を有するバイオベンチャーとの創業提携はもとより、大学などの研究機関との創業研究につながる研究提携を積極的に進めており、2019年度末では国内で182件、海外で96件の共同研究を行っています。今後もさらに拡大していく予定です。

また、数年で上市が期待できるような開発後期段階の化合物はもとより、開発早期段階（前臨床やフェーズI段階）であっても魅力的な化合物については積極的に獲得すべく、ライセンス活動を強化しています。

さらに、2020年7月に設立した「Ono Venture Investment Fund I, L.P.」ではシード期にある創業ベンチャーへの直接投資を行うとともに、今後、創業以外にもヘルスケア×デジタル分野への投資もグローバルベースで積極的に行っていきます。

2010年以降のライセンス（導入）活動の実績（2020年7月24日現在）

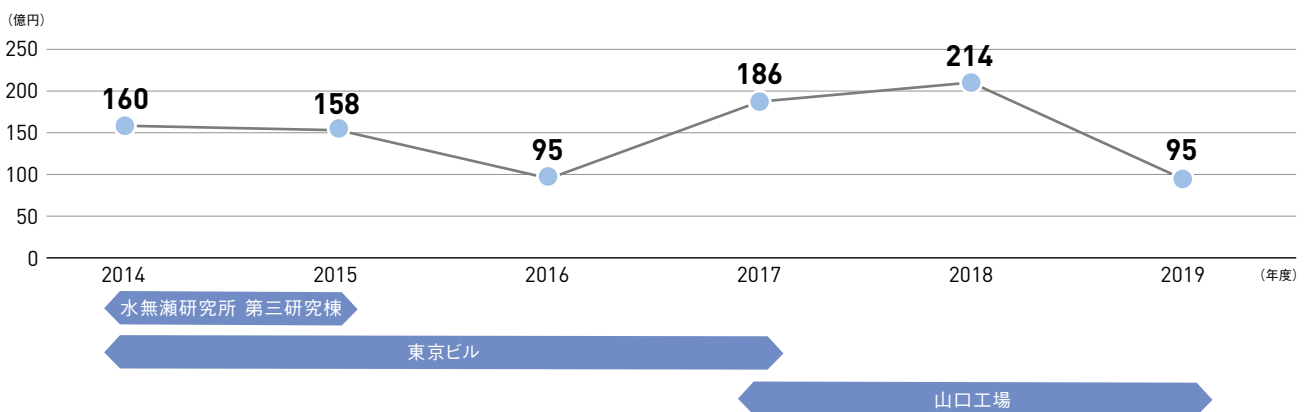
契約締結年月	製品名・開発コード（一般名）	効能	開発ステージ（日本）	提携企業
2010年9月	カイトロリス点滴静注用 （カルフィルゾミブ）	多発性骨髄腫	上市	オニキス社 （アムジェン社が買収）
2011年9月	コララン錠 （イバブラジン塩酸塩）	慢性心不全	上市	セルヴィエ社
	パーサピブ静注透析用 （エテルカルセチド塩酸塩）	二次性副甲状腺機能亢進症	上市	KAI社 （アムジェン社が買収）
	オレンシア点滴静注用、 オレンシア皮下注（アバタセプト）	関節リウマチ、若年性特発性関節炎	上市	ブリストル・マイヤーズ スクイブ社
2013年4月	オンジェンティス （オピカボン）	パーキンソン病	承認	ビアル社
2013年10月	デムサーカプセル （メチロシン）	褐色細胞腫	上市	バリアント社 （ボシュヘルス社に名称変更）
2013年12月	フォシーガ錠 （ダバゲリフロジンプロピレングリコール）	2型糖尿病、1型糖尿病	上市	アストラゼネカ社
		心不全	申請	
2014年7月	ヤーボイ点滴静注液 （イピリムマブ）	悪性黒色腫、腎細胞がん	上市	ブリストル・マイヤーズ スクイブ社
	ONO-4483 （Lirilumab）	固形がん	I	
	ONO-4482 （Relatlimab）	悪性黒色腫	I/II	
	ONO-4686	固形がん	I/II	
	ONO-4687 （Cabiralizumab）	膵がん	II	
	ONO-7701 （Linrodostat）	膀胱がん	III	
	ONO-7807	固形がん	I/II	
	ONO-7911 （Bempegaldesleukin）	固形がん 悪性黒色腫、腎細胞がん	I —	
2017年5月	メクトピ錠（ビニメチニブ）、 ピラフトピカプセル（エンコラフェニブ）	悪性黒色腫	上市	アレイ社 （ファイザー社が買収）
		結腸・直腸がん	申請	
2017年8月	ONO-5704/SI-613	変形性関節症	申請	生化学工業株式会社
		腱・靭帯付着部症	II	
2019年6月	ONO-7912 （Devimistat）	膵がん	I	ラファエル社
2019年7月	ONO-7913（Magrolimab）	固形がん	I	フォーティセブン社 （ギリアド社が買収）

設備投資

中長期的に最新の創業活動や安全かつ効率的な生産活動を維持していくために必要な設備投資を積極的に行っています。水無瀬研究所と福井研究所に分散していた化合物の合成・分析機能を、シーズ探索の研究初期から治験に至るまでの連携を強化し研究開発を推進するために、2016年2月に水無瀬研究所内に第

三研究棟を増築しました。2018年3月には人員増に対応すべく新しく東京ビルを建設し、老朽化していた旧東京ビルから移転しました。また、2019年7月には事業拡大への対応および事業継続の面から大規模災害のリスク軽減を図るために新工場「山口工場」を建設し、2020年3月に操業を開始しました。

設備投資額(連結)



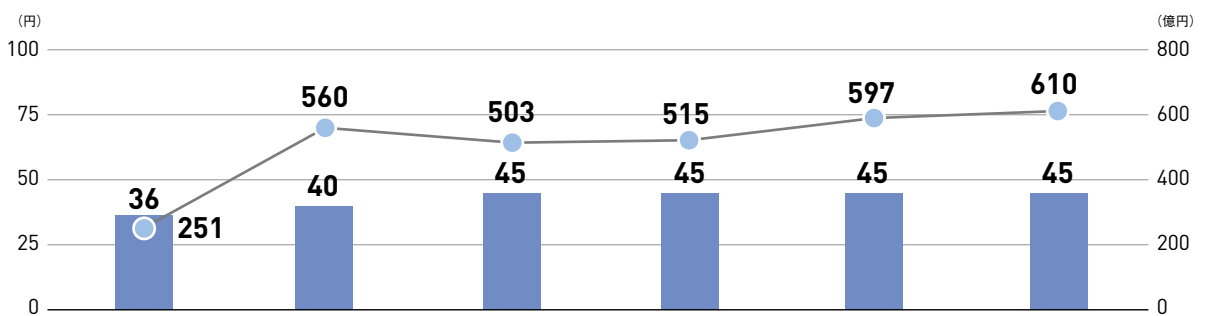
株主還元

株主還元は、「配当」と「自己株式の取得」をバランスよく行ってまいります。

「配当」は、金額ベースで安定的な配当の継続を重視するとともに、各期の業績状況も考慮し決定しています。

また、「自己株式の取得」については、資本効率の向上、株式市場での需給改善などを目的として、将来の資金需要を考慮しつつ、機動的に検討・実施していきます。

株主還元の推移



	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度(予定)
配当総額	191億円	212億円	231億円	231億円	231億円	
配当性向	76.4%	38.0%	46.4%	44.9%	38.0%	37.2%
自社株取得	—	—	388億円	—	296億円	
総還元性向	76.4%	38.0%	123.1%	44.9%	87.2%	

※2016年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の割合で株式分割を実施(2015年度の1株当たり配当金は株式分割後ベースに換算)